

～3年半の母子通園が終わりました～

昨年の12月28日をもって、コスモスへの母子通園が終わりました。息子はこれから3月の卒園までコスモスの先生方と一緒に療育を行います。一年生への準備。私にとって何を準備していかななくてはならないのでしょうか…？あっけなく最後の日はやってきました。何事も三日坊主で飽きっぽくミーハーなこの母をここまで頑張らせてくれた息子に感謝。息子の成長を一喜一憂する私を見守り続けてくださった先生方に感謝。母子通園を叶えさせてくれて支えてくれた家族に感謝。コスモス・小さな森保育園を作ってくれたひろ子先生に感謝。とにかくこの3年半、私の生活の中心はコスモス・療育でしたから…。

★テレビを撤去したあの日、主人と大ゲンカ。「今この子にしてやれる全てのことをしてあげたいの。この子には今しかないの。今が大事な。卒園するまで我慢してちょうだい！！」と泣き脅し。長女は翌日からテレビの画面にガムテープを貼り『このテレビはうつりません』の文句。現在でも我が家にはテレビがありません。今ではテレビなしの生活に慣れて、情報源が新聞だけになってしまった主人はかなり集中して読んでいます。その主人の周りには子ども達が群がり、「あっ、はっけよいつてる♪サッカーだ。ピーポーあるね～」と掲載写真をみては大喜び。2年生になる娘に「テレビなくて学校で大丈夫？」と聞くと、「テレビ買うなら本買って～」と言います。

★ご飯を玄米にした時も、普通の炊飯器で炊いたのですから固くてボロボロしていてけっしておいしいとは言えなかったと思いますが「う～ん、100%は厳しいかな？白米と混ぜたら？」と文句を言わずにつきあってくれました。後ほど、保育園と同じ圧力釜を購入して今ではモチモチのおいしい玄米100%ごはんです。娘はその茶色いご飯を学校の給食に平気な顔して持って行きます。「みんななんて言うの？五分搗きとかにする？」「ううん、こっちの方がおいしいからいいよ♡」と全く気にかけない様子。本当に有難いです。

★イナイナイバァが大事となれば酸欠する程やって、おいかけごっことなれば父・母はオニに変身して子ども達を追い掛け回す。水が大事となれば入浴時のお湯は流しっぱなし、ガス代、水道代はかさむかさむ…。風が大事となればどこまでも自転車につきあい、主人は荷台に乗せてこぎまくり、なかなか帰ってこない。遊園地の空中ブランコ(あのぐるぐる回りながら高くなっていくやつです)を吐きそうになるまで連続でのる。家の中ではコスモスの спин もどきで抱っこでグルグル何度もやって、本当にもどしてしまった主人…。

ひろ子先生に『今大事』と言われることは力の続く限り家族で協力して行ってきたと思います。療育から戻る度に、「ひろ子がね…、やすこがね…」という私を、口にせずとも(また、ひろ子か、また、やすこか。)と思っていたに違いありませんが、それを咎めることなく私の好きにさせてくれた戦友の主人には何より心から感謝です。

上の娘には1年生の頃にきちんと話しました。少しずつ他の子との違いに気づき始めてきていたので、園長に相談したところ「〇〇は大丈夫。ちゃんと話したらわかる子だからね。隠さず、あなたの言葉で話してみてもいいと思うよ。」とってくださいました。私は初めて娘に息子の病気を初めて話しました。娘はうんうんと頷き、幾つかの質問をしてきてくれました。私に解る範囲で答え、解らない所は正直に解らないと伝えました。娘は最後に「病気治るの?」と聞きました。私は少し答えに迷い…こう答えました。「この病気は治らないよ。でも、悪くならないようにコスモスに行くんだよ。」「ひろこも治せない?」「うん、ひろ子はお医者さんじゃないからね。」「やす子も?」「うん、多分ね。でも治らなくても〇〇がもっといい子になるように、コスモスに行ってるんだよ。」「ふ～ん、でも〇〇は治ると思う。だって、〇〇もういい子だもん。」このやりとりが正しいか間違っているのか私は未だにわかりません。けれど娘はその後、息子に遠慮するわけでもなく、嫌な事をされると本気で怒り、追い掛け回し、見えないところでイジワルしたり…。そんな娘の対応が面白いのか、息子は更に挑発し、イタズラしたりする始末。もちろん、その時は大変な騒ぎですが、対等に遊べる?ケンカもできる?ようになった子ども達をみて、改めて成長を感じています…少し話しがそれますが、息子が年少のときに下の子を産みました。しかも×2。母からは出産して少し経ってから「もう少し離して産んだらよかったですね。〇〇が落ち着いてからでもよかったんじゃない?」と言われましたし、友人のママからは「障害のある子を産んで次の妊娠は怖くないの?また同じような子が産まれたらどうしようって不安にならなかったの?」とも言われました。けれど私は赤ちゃんを産むことで娘も息子もちい森方式で一から子育てのやり直しを試みたかったし、何よりこの子に兄弟をつくってあげたい気持ちが強かったのです。母の少し早い?…→神様が決めたことだから(笑)。友人のまた障害のある子?…→コスモスあるしい(笑)。そしてひろ子の「大丈夫!!」の太鼓判。弱さを抱えた子を兄弟の中で育てるのは容易なことではありません。ですが、子ども達同士での助け合い、育ちあう力。子どもの力のおかげで息子はより成長してきたと思います。

母子通園の療育を終えて、時間もとれて、さぞかし家はキレイに、母も小奇麗になる?と思っておりましたが、全くそうはならない自分に日々反省。登園時間も少し遅くなってきているのは、冬の寒さのせいばかりではないでしょう…。息子と共に学んだたくさんの中で一番の事は『あきらめない、やり続ける』ことでした。そうすれば本当にどんなことでも叶うと私は息子に教えてもらいました。洋服を前後反対に着たがる息子に、そうじゃないと何度もやり直させ、正しく着せる。トイレのうんちは便座にまたがらないちゃんと座る。何度も何度も保育園の先生方と徹底して行く。個性とか自由とかそういうことではなく「当たり前」は「当たり前」に行わせる。障害云々はその次の話。当たり前体操が流行る何年も前からコスモスで掲げる「当たり前感覚」。弱さがある子にこの当たり前感覚をみにつけさせることは容易ではない。時間と根気が必要になってきます。泣く・わめく・暴れる…息子は嘔みついたりすることもありました。先生方も我々保護者も本気でなけれ

